



市民参加協力の現場から

函館で「地球まつり」が、JICA札幌で「見聞広場」が開催されました

10月8日(土)、「第2回地球まつり」が函館市国際交流プラザで開催されました。函館市、(財)北海道国際交流センター等、函館で活動する約60の国際交流・協力団体が協働し開催した地球まつり、JICAも函館で活動する国際協力推進員を中心に参加しました。

台風が近づくあいにくの天候の中、述べ800名の方々が来場し、各団体の特色ある展示を楽しみました。また、以前、(財)北海道国際交流センターに勤め、現在、特定非営利活動法人シャプラニールで活躍する小松さんによる草の根レベルでのネパールでのストリートチルドレン支援活動についての講演、函館で活動するアフリカンドラムのグループの演奏等、様々なプログラムを楽しんでいただきました。JICAブースではパネルや民芸品の展示のほか、JICAボランティアについての相談窓口を設け、職員や協力隊OBが来場者の方と交流をしながらシニア海外ボランティアや青年海外協力隊について知ってもらいました。(国際協力推進員(函館) 岡田)



「地球まつり」で講演する小松氏(特定非営利活動法人 シャプラニール クラフトリンク チーフ)

9月2日(日)、JICA札幌で「見聞広場」が開催されました。世界各地の開発途上国からの研修員約50名と地域の方々約80名が交流しお互いの国々についての理解を深めました。アジア、大洋州、中南米、アフリカの民族衣装が夏を感じさせ、太陽の光に輝く各国の雰囲気があふれる中、「見聞広場」が始まりました。

まず、アジア・大洋州の部屋です。アジア雑貨店から香の香りが広がります。部屋の中には、アジア各国からの雑貨がずらり、刺繍の施された掛け軸や、木彫りの置物など、アジアの国々の文化や伝統を感じさせます。クイズや研修員の歌や踊り、そして地域の方々と研修員が一緒になってのアフガニスタンの踊り、アジアの国々の様々な文化を感じることができました。次に中南米の部屋です。中南米の民芸品がところ狭しと並ぶ中から、陽気な音楽が聞こえてきます。最初のプログラムは、スペイン語の伝言ゲーム。簡単なゲームかと思えば、やはり言葉が違うためでしょうか、最後の方が発表した時にはまったく違う言葉にかわっていたりして、笑いが絶えませんでした。続いて、研修員と地域の方々と一緒にダンス。ここでは、男女ペアです。最初はちょっと恥ずかしがっていた参加者も、研修員に手をとられ、多くの方が輪に加わりました。最後はアフリカの部屋です。一言でアフリカといっても、実際はとても広く、言語や文化は多様です。そこで、ここではアフリカからの研修員が3グループに分かれ、歌や踊りを披露しました。美しい娘にかなわない恋をする青年の歌、札幌に旅行に行ってしまった婚約者を待ち焦がれる歌、二人の奥さんを抱える男性の歌など、さまざまな歌と踊りが披露されました。その日本語の歌詞を読むと、真剣な内容なのですが、研修員の陽気な雰囲気とアフリカ特有のリズムのおかげで、真剣かつ親しみにあふれた雰囲気にあふれていました。(インターン 中寺)



「見聞ひろば」の一コマ アジア・大洋州の部屋 国あてクイズ



「見聞ひろば」の一コマ アフリカの部屋 伝統的なダンスを踊るナイジェリアの研修員

JICA札幌ニュース



高校生がインターンシップとしてJICA札幌の業務を体験しました —札幌から—

JICA札幌では毎年夏に大学生を対象としたインターンシッププログラムを実施していますが、大学生の他に、今年は9月中旬の1週間、高校生インターン(職場体験学習)を受け入れました。北海道札幌東商業高校の4名と札幌藻岩高校の2名、計6名。環境分野の研修員とリサイクルプラザを訪問したり、JICA札幌を訪問した自分たちの後輩に対して、JICA札幌での経験を話したりと様々な業務を体験していただきました。特に印象深く感じていただいたのは「やってみよう選考会」。これはA23フォーム(研修要請書)を読み、選考会資料を作成するもの。もちろん既に実施された研修であり、選考会資料、そして選ばれた研修員に関する情報は整理されています。高校生の選考会資料と実際の資料を比べると1人以外は全てあっている好成绩。これは高校生たちも大喜びでした。一方、この結果を見たJICA研修担当職員「僕たちの経験って、なくても業務ができちゃうのかなー」と少し複雑な表情でした。(JICA札幌 飛)



草の根技術協力(地域提案型) 旭川の専門家がハルピンを訪問 —旭川から—

旭川市がすまいるイン旭川(旭川市高齢者等住宅改善推進協議会)等と連携し実施しているJICA草の根技術協力(地域提案型)「寒冷地における高齢者等対応住宅改善計画」では、7月~8月にかけて実施したハルビン市からの研修員の受入に引き続き、この9月に3名の専門家の方をハルビン市に派遣しました。「カンベイ」「カンベイ」の中国式の歓迎を受けながらも、3週間にわたっての講習会、今後のハルビン市での取り組み方への助言等、様々な活動を行ってまいりました。2004年から始まったこの協力も今年が最終年です。「医療と建築が密接に連携し高齢者に優しい建築への取組はハルビン市では始まったばかりです。でも、この3年間の成果に基づき着実に進めていきたいです」とのハルビン市関係者の声。旭川市とハルビン市の友好姉妹都市の関係を活かし、引き続き草の根レベルでの交流・協力が継続して行われることが期待されます。(国際協力推進員(旭川) 鳥居)



ハルビンでの専門家の活動の様子。現地で医療関係者と建築関係者を対象に、高齢者等に優しい住宅の整備方法について研修会を開催しました。



上ノ国町立小砂子小学校の黒川先生が開発教育/ 国際理解教育コンクールで外務大臣賞を受賞!! —函館から—

外務省が主催する第3回開発教育/国際理解教育コンクールで、檜山郡上ノ国町の小砂子小学校の黒川貴功教諭がみごと外務大臣賞を受賞しました!黒川先生は2年前にJICAの教師海外研修でエジプトを訪れ、その際に視察をしたストリートチルドレンの施設の子どもたちと小砂子小学校の児童との交流を総合的な学習の時間等を活用し、2年間にわたって実施しました。音楽、習字等、自分たちの身近にあるものを素材とし、手紙やビデオで交流を行ったそうです。「子どもたちは挨拶をアラビア語で書いたり、エジプトの子どもたちは日本語で書いたり返事が来るたびに盛り上がり喜んでいました。今後もいろんな交流を続けていきたいです」(黒川教諭談)。(国際協力推進員(函館) 岡田)



表彰式での黒川教諭